

令和5年度発達障害教育セミナー

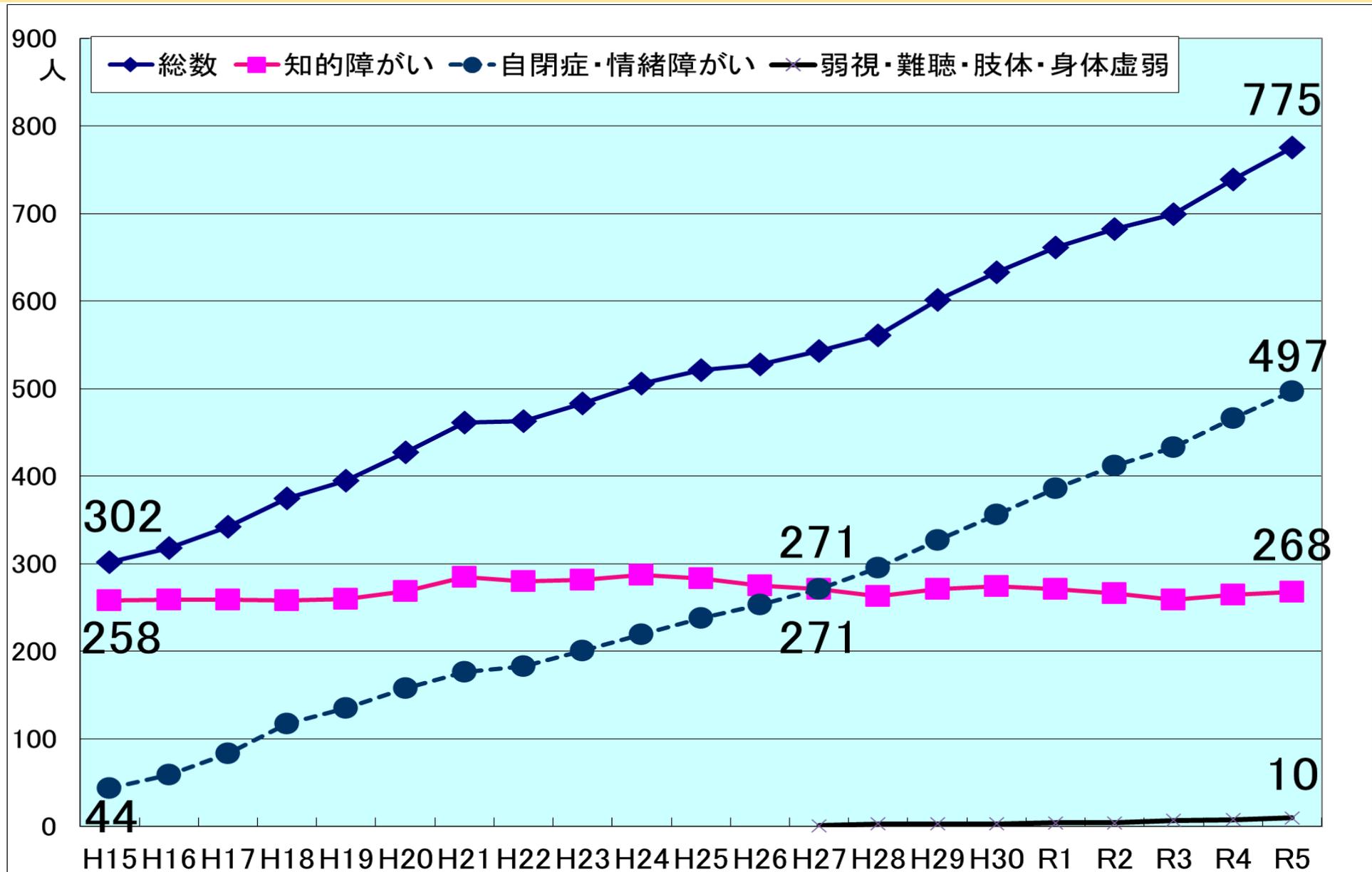
通常の学級における発達障害教育 の充実に向けた課題と今後の展望

令和6年1月25日

宮崎県教育研修センター
教育支援課 特別支援教育担当
濱崎 かおり



現状と課題から



本県における特別支援学級設置状況

インクルーシブ教育システムの実現に向けた 国及び県の方針

(国)教育振興基本計画(R5~R9)

- ・ インクルーシブ教育システムの推進による多様な教育的ニーズへの対応
- ・ 多様性、公平・公正、包摂性(DE&I)ある共生社会の実現に向けた教育の推進

宮崎県教育振興基本計画(R5~R8)

- ・ 特別支援教育の視点に基づく授業づくりや学級集団づくりを推進し、インクルーシブ教育システムの実現を目指す
- ・ SWPBSの推進

インクルーシブ教育システム

障がいのある者と障がいのない者が共に学ぶ仕組み

例えば

授業参加を例に挙げると…。

それぞれの児童生徒が、
学習活動に参加している実感と達成感をもちながら、充実した時間を過ごすことができているか？
その過程で生きる力を身に付けていくことができるか？
を児童生徒に関わるすべての教員が振り返ることが必要である。



現状と課題から

アセスメント
共通理解
共同実践

この指導で長年やってきた。
でも、なかなかうまくいかないことが増えてきた。

保護者が甘やかしているのが悪いから教育すべき。

この指導で長年やってきた。
今でも自分の教科の時間はうまくいっている。
他の教科の時間に立ち歩きや暴言があるのは、担当者が甘いからだ。

保護者と行き違いが生じてから論点が変わってしまっ
てかみ合わない。

展望

一貫性のある指導
手法を取り入れる

→実態把握に基づいた導入

アセスメントの問題

丁寧で具体的・客観的な実態把握



認めて励ましてきたけれど、どんどん要求がエスカレートして
きた。

共感的理解を大切に対応してきたけど……。
疲れ果ててしまった。

現状と課題から

校内支援委員会 や ケース会議

ケース会はすごく時間がかかる。

児童生徒のできていないことのみでの共有で終わってしまう。

改善、解決への糸口
がまったく見つからない。



展望

校内支援委員会やケース会の在り方の見直し

- 内容
- 構成メンバー
- 事前資料（ワークシートの活用）

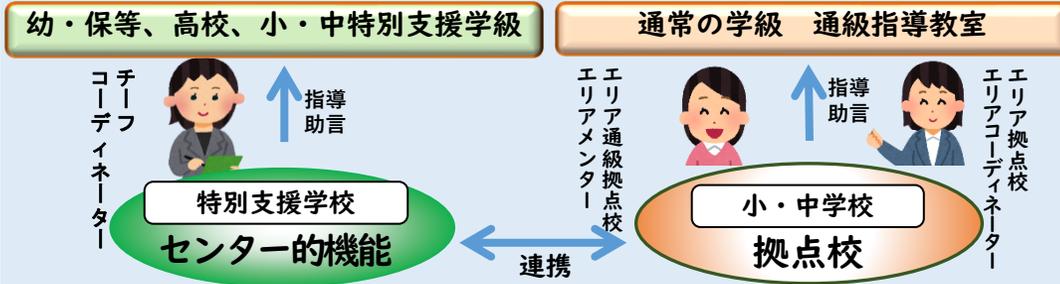
教師サイドの困っていることをただただ話すだけで終わってしまう。

外部機関やサポート依頼を行う前に、校内で共通理解をしたり、まずはできることを考えて実践したいけどできていない。

UDハンドブックの活用

①学校の「特別支援教育力」の向上

(ア) 学びの場ごとに焦点化した巡回支援



(イ) サブエリアコーディネーターの養成と活用

エリアコーディネーターの補助的役割として、現籍校の近隣の学校の一次的な相談窓口となり、助言等の支援を行う。上級コーディネーター養成研修修了者（小中学校合わせて約70名）の中から、現籍校での役割等を踏まえて、県教育委員会が依頼する。

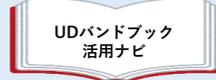
(ウ) スクールワイドPBS実践支援校訪問

特別支援教育の推進に関する課題があり、スクールワイドPBSの導入・実践を希望する学校に対し、教育行政機関等が導入・実践に当たって指導助言等の支援を行う訪問を行う。



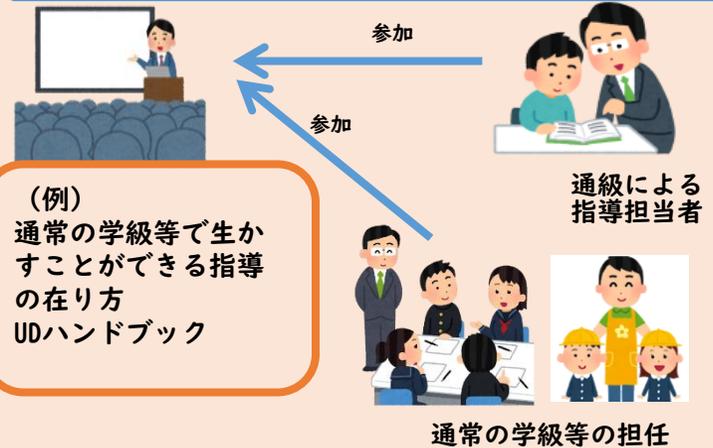
(エ) 「授業のユニバーサルデザイン化」UDハンドブックの活用

通常の学級における特別支援教育の視点を生かした授業作りの在り方や工夫についてまとめたマニュアルを各学校に配付し、研修等において活用を促すことで、児童生徒のニーズに応じた指導の充実を図る。

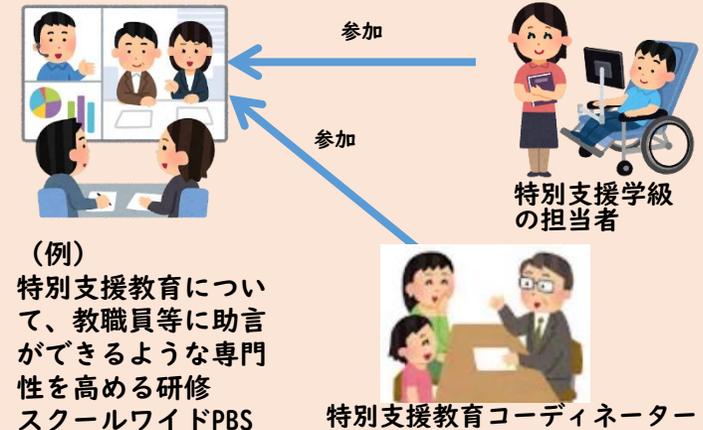


②教員の発達障がい等教育に係る指導力向上

(ア) 初任や経験の浅い教員を対象にした研修会



(イ) 特別支援教育C0.や特別支援学級担任等を対象にした研修会



UDハンドブックの活用

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた 分かる!できる! 学校全体で取り組む授業の土台づくりハンドブック

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた
「分かる!」「できる!」
学校全体で取り組む授業の土台づくり
ハンドブック



1	インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進	2
2	ユニバーサルデザインとは	2
3	ユニバーサルデザインを取り入れた授業とは	3
4	通常の学級担任に求められる配慮と指導力	3
5	すべての子どもを対象とした校内支援体制整備の在り方	4
6	すべての子どもにとって過ごしやすい環境づくりと実践例	13
7	「分かる」「できる」を実感できる授業づくりの進め方と実践例	21
8	「分かる」「できる」を実感できる授業づくりチェックシート	23
9	参考資料・文献	作成検討委員

宮崎県教育委員会

「分かる!」「できる!」を実感できる
授業づくりチェックシート

指導のポイントは
二次元バーコードへ

項目	具体的な実践内容	ポイント	刺激の調整 整理整頓
1	視覚的 刺激量 の調整 ○ 黒板・黒板まわりがすっきりしている ○ 先生の机上・棚がすっきりしている ○ 教室内の棚・床がすっきりしている ○ 先生の表情が基本的におだやか ○ 先生の声量は使い分けられている (一斉・個別・注意等)		QRコード
2	聴覚的 刺激量 の調整 ○ 人権感覚のある先生の言葉遣い ○ 授業中の静寂が存在する(静かに聞く場面の確保) ○ 「分からない」「教えてと言えぬ雰囲気づくり」 ○ 柔らかい雰囲気をつくる言語環境づくり ○ ペア・グループ学習がスムーズに成立する学級経営		活動の見直し QRコード
3	クラス内の 理解促進 ○ 学習規律が存在する ○ ルール定着のための指導が継続的になされている		個別支援 QRコード
4	ルールの 明確化 ○ 45(50)分の見通しが示せる指導計画を立てている ○ 45(50)分の授業の流れ(見直し)を視覚的に示している		一斉指導の 工夫 QRコード
5	時間の 構造化 ○ めあてが「焦点化」されている ○ 注目にたくなる、考えたくなる等の工夫がなされている ○ 漠然とした指示でなく具体的な指示になっている (1回で1つの指示)		発問・指示 QRコード
6	焦点化 ○ 必要に応じて具体例・手本・ヒントの提示・考え方の共有等の工夫がなされている		
7	スモール ステップ化 ○ 口頭だけに頼らない情報伝達の工夫(見える化)がなされている		
8	視覚化 ○ 目で見確認・理解ができる工夫がなされている ○ 45(50)分間 座学にならない工夫がなされている		
9	動作化 作業化 ○ 体や感覚を使って理解を深める活動を取り入れている ○ 子ども同士の活動が設定されている		
10	共有化 ○ 子ども同士で意見を交換する場が設定されている ○ 具体的に・短く・肯定的に視覚的に話している (くみこし)		
11	指示の 出し方 ○ 否定的注目よりも肯定的注目を心がけている ○ 否定的関わりよりも肯定的関わりを心がけている		

「合理的配慮」
合意形成サポートシート

Word形式 PDF形式

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた
「分かる!」「できる!」
学校全体で取り組む授業の土台づくり
ハンドブック

1	インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進	2
2	ユニバーサルデザインとは	2
3	ユニバーサルデザインを取り入れた授業とは	3
4	通常の学級担任に求められる配慮と指導力	3
5	すべての子どもを対象とした校内支援体制整備の在り方	4
6	「分かる」「できる」を実感できる授業づくりの進め方と実践例	21
7	「分かる」「できる」を実感できる授業づくりチェックシート	23
8	参考資料・文献	作成検討委員

宮崎県教育委員会

令和4年3月 宮崎県教育委員会

UDハンドブックの活用

⑤ 教師の話し方、発問や指示

教師の児童生徒への働きかけの大部分は「話すこと」です。話し手が聞き手に与える印象は、話の内容だけでなく、視覚的情報や非言語的情報（声、表情、振舞、服装など）の部分も影響が大きいとされており、教師も大切な環境の一部と考えられます。分かりやすいメッセージを与えるための工夫を考えてみましょう。

児童生徒の頑張りを認め、肯定的な表現で話しかける

児童生徒のやる気を引き出し、積極的な学習参加を促すためには、一人一人の児童生徒の頑張りを認め、伸ばそうとすることが大切です。

【例】

- 結果だけでなく、学習の過程や本人の頑張りを認める。
- 「～するな」ではなく「～しよう」と肯定的な表現を心がける。
- できていることも認める。
- ※「認める」ことと「むやみに褒める」ことは違います。ポイントを見極めて、メリハリをつけることが大切です。



新しくできるようになったことだけでなく、がんばりや、できていることも認める

話し始める前に、興味を引く工夫をする

聞く準備ができていない状態で話し始めると、話の内容がうまく頭の中に入らずに、聞き漏らしてしまいます。話す前に児童生徒の注目を集める工夫が大切です。

【例】

- 児童生徒の活動をいったん止め、注目を促してから話し始める。
- 活動の見直しや学習内容を簡潔に提示する。
- 児童生徒の様子を見ながら、話し始めるタイミングを計る。
- 言葉だけでなく、表情や視線に気を配ったり、ジェスチャーを交えたりして話す。
- ICT機器等を用いて、視覚や聴覚による情報を複合的に提示する。



わかりやすい発問や指示になるように、表現の工夫をする

発問や指示を出すとき、一文が長かったり、同時に複数の指示をしていたりすると混乱したり聞き漏らしたりする児童生徒も出てきます。発達段階や実態に応じて、できるだけシンプルな発問や指示を心掛けることが大切です。

【例】

- 短い言葉で簡潔に説明する。
- 言葉だけで伝わりにくいことは、具体物や写真、イラストで補う。
- 遠まわしな表現や抽象的な表現は避け、具体的に表現をする。

教育的ニーズに合わせた教材を準備して子どもの苦手に配慮を!

コミュニケーションが苦手な子どもへの配慮(例)

- 「ヘルプカード」の活用により、困っていることを伝えやすくなる。
- 意思表示の代替手段として「保健室利用カード」、「トイレ行っていていいですかカード」を活用することもストレスを減少させることにつながる。
- SOSが出しやすい学校全体の雰囲気づくりに努めることも必要である。



出典：東京書籍口達字級での特別支援教育スタンダード

テスト勉強が苦手な子どもへの配慮(例)

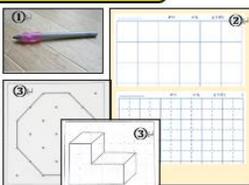
- テスト対策プリントを準備し、焦点化する。
- 「学習の手帳」「学習方法」を明記して取り組む
- 点を明確にしたプリントを全員に配布することで、テスト勉強への意欲を高めることができる。



具体的な手立てを準備し、個に対する支援を!

書くことが苦手な子どもへの配慮(例)

- 握りやすいグリップの活用（筆圧に合わせた書きやすい鉛筆や指がしっかりと固定できるグリップを活用することで苦手意識を軽減することにつながる。）①
- マス目の大きいノートや罫線・リーダー線のある用紙への変更（学年指定のノートにこだわらず実態に応じた用紙を用意することで、書くことへの抵抗を減少させることにつながる。）②
- 点結びや技術家庭のキャビネット図等を正確に写す練習をする。（視覚認知の基礎力を身につけることにもつながる。）③
- 穴埋め式のワークシートの活用等により、書く量を減らす。



読むことが苦手な子どもへの配慮(例)

- 「補助シート」を活用し、読むだけが見えるようにすることで、視線の移動がスムーズになり、読みやすくなる。④
- テキストや配付物の拡大提示や（本人が読みやすい大きさ）、ルビ付き教材を利用する。
- 文節と文節の区切れは「スラッシュで区切る」、読み間違やすい単語は「丸で囲む」等の印をつけさせる。
- パソコンの読み上げソフトやデジタル教科書のフリガナ付きソフトを活用する。⑤



④ 評価による意欲付け

「めあての行動化ができてい」ことが視覚的に確認できると、できたことへの実感がわき、次の行動への意欲付けになります。



《日直の仕事》《当番活動》
 □仕事が終わったら、一つ一つ裏返していく。全部そろったら「イラスト」や「おつかいさまでした。」等の文字が出てくる。



《当番活動①》
 活動が終わったら、裏返すことで、「イラスト」や「よくできました」等の文字が出てくる。

《当番活動②》
 一人一役の活動が終わったら、名前を書いたマグネットを動かすことで、取組状況も分かる。



《望ましい行動を促すための方法》
 □指示したときに、望ましい行動ができてい子どもを評価することも大切。
 □また、評価も視覚的にすることで、より伝わりやすくなる。



ユニバーサルデザインの視点を取り入れた
 「分かる!」「できる!」

学校全体で取り組む授業の土台づくり

ハンドブック



1. 小冊子「学習支援」(特別支援教育の推進).....2
2. エコバーサルデザイン.....2
3. 通常の学習形態に求められる基礎と能力.....3
4. すべての子どもを対象とした校内支援体制構築の仕方.....4
5. すべての子どもにとって通じやすい環境づくりの実践.....13
6. 「分かる!」できる!」を達成するための実践と評価シート.....21
7. 「分かる!」できる!」を達成するための実践と評価シート.....32
8. 参考文献・資料 作成検討委員名簿.....33

宮崎県教育委員会

UDハンドブックの活用

「分かる!」「できる!」を実感できる
授業づくりチェックシート

指導のポイントは
二次元バーコードへ



項目	具体的な実践内容	チェック
1 視覚的 刺激量 の調整	○ 黒板・黒板まわりがすっきりしている	
	○ 先生の机上・棚がすっきりしている	
	○ 教室内の棚・床がすっきりしている	
2 聴覚的 刺激量 の調整	○ 先生の表情が基本におだやか	
	○ 先生の声量は使い分けられている (一斉・個別・注意等)	
	○ 人権感覚のある先生の言葉遣い	
3 クラス内の 理解促進	○ 授業中の静寂が存在する(静かに聴く場面の確保)	
	○ 「分からない」「教えて」と言える雰囲気づくり	
	○ 柔らかい雰囲気をつくる言語環境づくり	
4 ルールの 明確化	○ ペア・グループ学習がスムーズに成立する学級経営	
	○ 学習規律が存在する	
	○ ルール定着のための指導が継続的になされている	
5 時間の 構造化	○ 45(50)分の見通しを示せる指導計画を立てている	
	○ 45(50)分の授業の流れ(見通し)を視覚的に示している	
	○ めあてが「焦点化」されている	
6 焦点化	○ 注目しなくなる、考えなくなる等の工夫がなされている	
	○ 漠然とした指示でなく具体的な指示になっている (1回で1つの指示)	
	○ 必要に応じて具体例・手本・ヒントの提示・考え方の共有等の工夫がなされている	
7 スモール ステップ化	○ 口頭だけに頼らない情報伝達の工夫(見える化)がなされている	
	○ 目で見て確認・理解ができる工夫がなされている	
	○ 45(50)分間 座学にならない工夫がなされている	
8 視覚化	○ 体や感覚を使って理解を深める活動を取り入れている	
	○ 子ども同士の活動が設定されている	
	○ 子ども同士で意見を交換する場が設定されている	
9 動作化 作業化	○ 具体的に、短く・肯定的に・視覚的に話している (くみこし)	
	○ 否定的注目よりも肯定的注目を心がけている	
	○ 否定的関わりよりも肯定的関わりを心がけている	
10 共有化		
11 指示の 出し方 関わり方		

個別の配慮が必要になった時は・・・

「合理的配慮」
合意形成サポートシート

Word形式

PDF形式

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「分かる!」「できる!」
学校全体で取り組む授業の土台づくり ハンドブック

活用ナビ

すべての子どもの
「分かる!」「できる!」のために

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた
「分かる!」「できる!」
学校全体で取り組む授業の土台づくり
ハンドブック

- インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進……………2
- ユニバーサルデザインとは……………2
- ユニバーサルデザインを取り入れた授業とは……………2
- 通常の学級担任に求められる配慮と指導力……………3
- すべての子どもにとって過ごしやすい環境づくりと実践例……………4
- 「分かる!」「できる!」を実感できる授業づくりの進め方と実践例……………21
- 「分かる!」「できる!」を実感できる授業づくりのチェックシート……………32
- 参考資料・文献 作成検討委員名簿……………33

宮崎県教育委員会

すべての子どもを支える校内支援体制
はどのようなものですか?

ポイントは
○ まず、レベル0の支援からスタート

【困難さが生まれにくい学校全体の支援体制の充実】 P5

何かが起こってから指導
↓
予防的な先回り支援へ

スクールワイド
PBS

すべての子どもにとって過ごしやすい学習環境
とはどのようなものですか?

ポイントは
○ 子どもにとって学びやすい環境
○ 子ども自身が自力でできる学習環境

具体的な5つの視点
① 刺激の調整 ② 整理整頓への手立て
③ 活動の見通し ④ 評価による意欲付け
⑤ 教師の話し方・発問や指示

P13~20

担任をチームで支えるための組織づくりはどのようなもの
ですか?

ポイントは
○ 特別支援教育の推進について学校経営に明確に
位置付け

子どもに寄り添う担任が一人で抱え込まずに、組織
で子どもや担任を支え合えるようなチームづくり

P6

「分かる」「できる」を実感できる授業づくり
はどう進めればよいですか?

ポイントは
○ まずは子どもの「実態把握」からスタート
○ 「不安」「分からない」「つまずき」の解消へ

※ ①~④の順番で授業づくり
① 実態把握 P22 「子ども」の実態
把握からスタート
② 一斉指導の工夫 P23
③ 個別の支援 P27
④ 個に応じた特別の指導・支援 P29

P21~30

校内支援体制の中で、私はどんな役割になりますか?

ポイントは
○ 自分ごととして捉える意識と日常的な相談・連携

特に、中学校において学校全体ですべての生徒を対象
とした「レベル0」の支援を充実させるためには、生徒
指導主事と特別支援教育Coの協働した取組が重要

P6~10

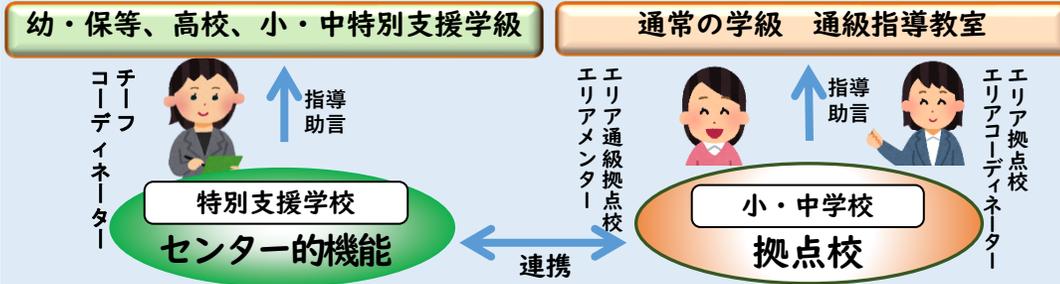
ハンドブックの活用例を教えてください。

○ エリア拠点校を中心とした
実践を紹介します。

スクールワイドPBS

①学校の「特別支援教育力」の向上

(ア) 学びの場ごとに焦点化した巡回支援



(イ) サブエリアコーディネーターの養成と活用

エリアコーディネーターの補助的役割として、現籍校の近隣の学校の一次的な相談窓口となり、助言等の支援を行う。上級コーディネーター養成研修修了者（小中学校合わせて約70名）の中から、現籍校での役割等を踏まえて、県教育委員会が依頼する。

(ウ) スクールワイドPBS実践支援校訪問

特別支援教育の推進に関する課題があり、スクールワイドPBSの導入・実践を希望する学校に対し、教育行政機関等が導入・実践に当たって指導助言等の支援を行う訪問を行う。



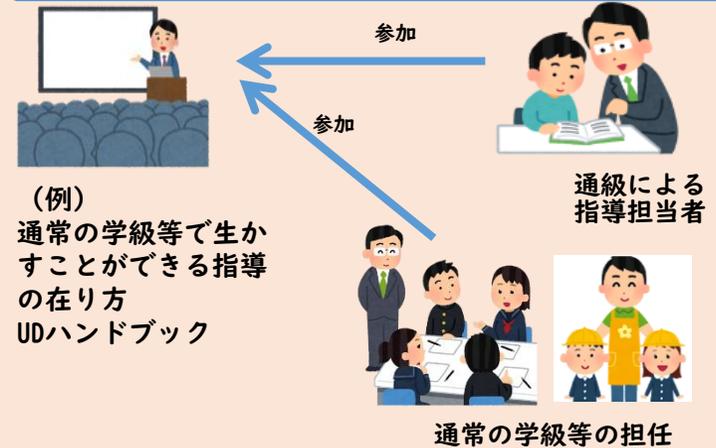
(エ) 「授業のユニバーサルデザイン化」UDハンドブックの活用

通常の学級における特別支援教育の視点を生かした授業作りの在り方や工夫についてまとめたマニュアルを各学校に配付し、研修等において活用を促すことで、児童生徒のニーズに応じた指導の充実を図る。

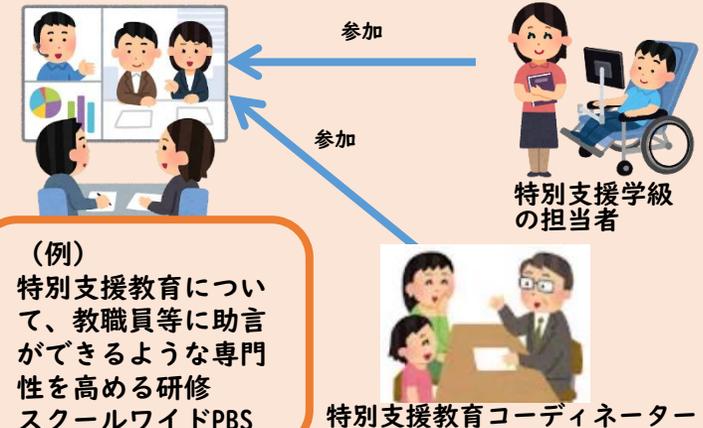


②教員の発達障がい等教育に係る指導力向上

(ア) 初任や経験の浅い教員を対象にした研修会



(イ) 特別支援教育C0.や特別支援学級担任等を対象にした研修会

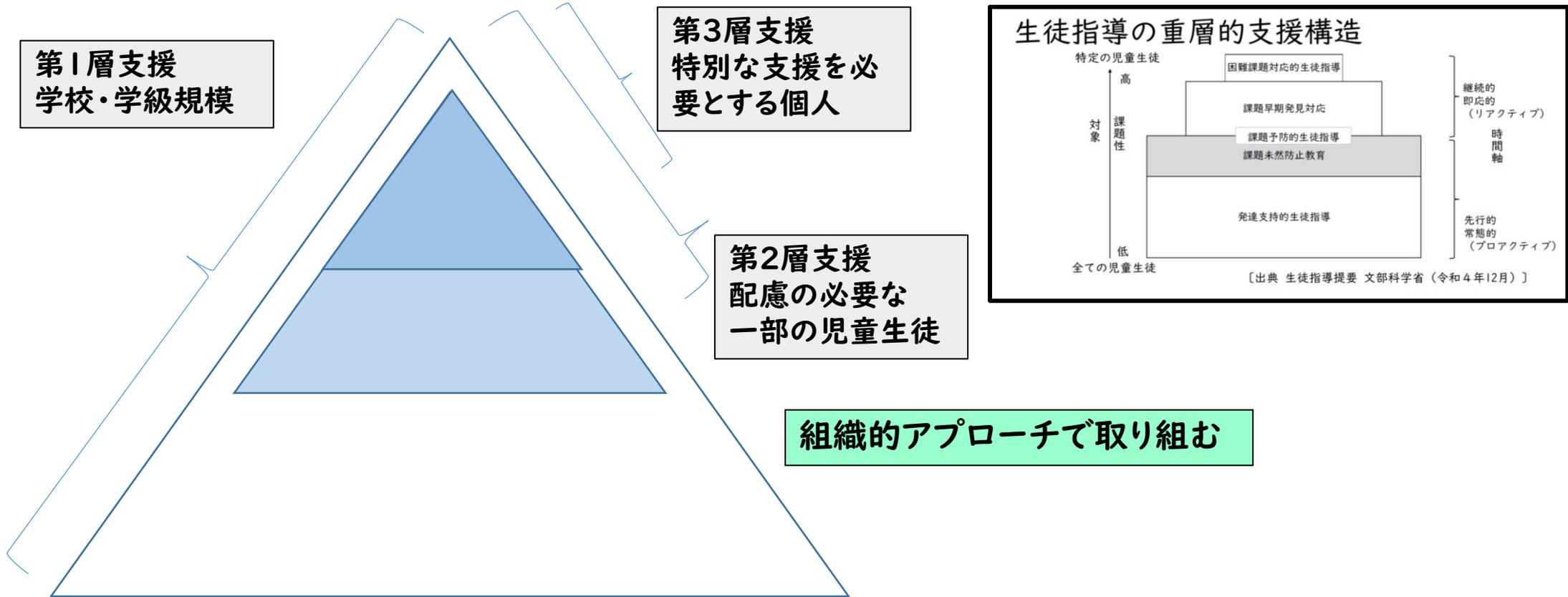


特別支援教育コーディネーター (Special Education Coordinator)

スクールワイドPBS

スクールワイドPBSとは・・・

肯定的行動支援を、積極的に予防的に**学校全体**で行うものです。



※スクールワイドPBS(学校全体で取り組むポジティブな行動支援)
問題を起こしている児童生徒だけでなく、**すべての児童生徒**を対象とした
校内支援体制

通級による指導の理解と通常の学級の連携

次のような課題から、研修動画の作成を検討

- 通級指導教室の新設に合わせて、初担当者の増加による学ぶ機会の必要性
(1校1教室または複数設置校でも障がい種が異なることからOJTによる学びが難しい)
- 熟練した指導者のノウハウを引き継いでいく必要性
- 通級による指導で行われている指導を通常の学級の指導に生かしたり、校内支援体制整備に生かしたりする必要性
- UDを土台にした通常の学級・授業づくり

通級指導の実際

小学校3校(情緒1、LD・ADHD2)
中学校1校(LD・ADHD)の指導の実際について撮影

通級指導教室を生かした 校内支援体制整備

小1校(エリア拠点校)
エリアコーディネーター、通級指導教室担当、通常の学級担任、
学校長による座談会を撮影

通常の学級におけるUDを 土台にした学級・授業づくり

小1校
通常の学級の授業動画をUDの視点でエリアコーディネーター
が解説